

秋田ブランドの野菜が販売できない！

売りたいくても野菜が運べない そんな時代が すぐそこに。



おらがだ つぐった 枝豆どが、トマト
運べねくなるって
ほんとだべか？ うそでねが！

私たちが野菜を全国に、いつまでも運びたいと願っています。

そのために、生産者の皆さんJAの皆さんと運送事業者が
一緒になって対策について考えてみましょう。



秋田県トラック協会 マスコット
「とらっくん」です。

どうして運べなくなるの？

その1 **トラックドライバーのなり手が不足しています。**

・ドライバーは、他の業界より労働時間が2割長く賃金が2割安いと言われてしています。

その2 **国の定めた運転基準が守れません。**

・1日の拘束時間・休息期間(仮眠時間など)・休憩時間・運転時間が細かく、厳しく制定されています。(過労運転防止の為)
・昔みたいに、たくさん走ってその分たくさん稼ぎたいけど、走れない！



ドライバーさんも大変だなあ～

いろんな時間にも縛られているんだ
拘束時間・休息期間(仮眠時間など)・休憩時間・運転時間

ドライバーさんが減ればトラックも少なくなるな



おらがたに
出来る事
何かねべな一。

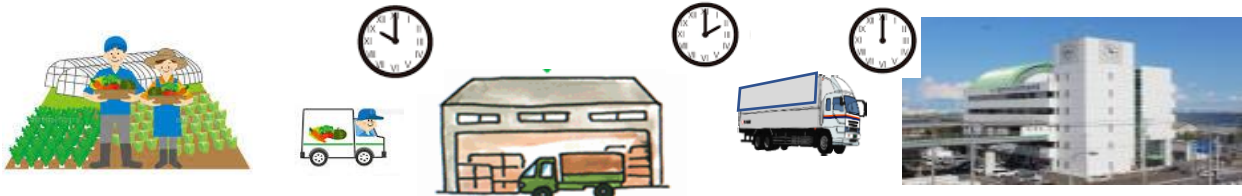


その1. 出荷所へ持ち込み時間の厳守が必要です。

・出発が遅れると⇒市場到着も遅れる⇒良いお客へ販売できない
(安値でたたかれることも)

※市場到達のため急ぐと・・・無理な運転(事故の可能性・荷主責任)

・定時出発⇒定時到着⇒お客が安心して購入(単価に反映)



その2. 出荷量の正確な事前把握が必要です。

事前の手配と適正な台数確保で、効率性が高まる！



昨日50箱って言ったども
100箱も収穫できた！
いいべ！



うっそー！100？
全部積めるかな？
今からトラックを探せな
い！困った！



JA出荷担当さん

正確な出荷量の把握は、無駄のない配車と積載率の向上を可能にします。



消費者のみなさんが、楽しみに待っています！

秋田の未来の物流を考える協議会

農林水産物流検討ワーキンググループ

秋田県産業労働部 ・ (公社)秋田県トラック協会